

第 33 回 愛媛形成外科研修会  
抄 録 集

日 時 平成 26 年 6 月 21 日(土) 17 時 30 分～  
場 所 四国がんセンター 地域医療連携研修センター  
3 階 研修室  
松山市南梅本町甲 160 TEL:089-999-1111

当番世話人 住友別子病院  
形成外科 安井 史明

## 第 33 回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、17 時 00 分より会場で行います。  
※お車でお越しの場合、駐車場は利用可能ですが 100 円の駐車料金がかかります。
2. 参加費は、2,000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 3 分～5 分を予定しております。
5. PC は Windows7 、Power Point 2010 を使用してのプレゼンテーションとなります。  
(当日は、USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。)

### 連絡先

〒792-8543 愛媛県新居浜市王子町 3-1  
住友別子病院 形成外科 安井 史明  
E-mail : korori0206@gmail.com  
TEL : 0897-37-7111 (代)

## 会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名
第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	30名
第27回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年6月18日	31名
第28回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年11月26日	25名
第29回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4階 末広	平成24年6月23日	34名
第30回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成24年12月1日	26名
第31回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成25年6月22日	36名
第32回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2階 楓の間	平成25年11月30日	30名
第33回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成26年6月21日	

会場：四国がんセンター 地域医療連携研修センター 3階 研修室  
 松山市南梅本町甲 160 (TEL: 089-999-1111)



## プ ロ グ ラ ム

Section I (17:30~18:20) 座長：十全総合病院 形成外科 神田 郁乃 先生

1. 眼窩内異物の 1 例  
松山市民病院 形成外科 手塚 敬 他
2. 獣皮様母斑の 1 例  
松山赤十字病院 形成外科 岡部 寛
3. リンパ浮腫におけるリンパ管細静脈吻合の実際  
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他
4. 頭蓋骨欠損に対して用いた人工骨の検討  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他
5. 皮膚悪性腫瘍と鑑別が困難であった腺様嚢胞癌の 2 例  
住友別子病院 形成外科 北口 陽平 他

Section II (18:20~19:10) 座長：愛媛労災病院 形成外科 黒住 望 先生

6. 77 歳の唇顎口蓋裂症例  
県立広島病院 形成外科 永松 将吾 他
7. 静岡がんセンターのマイクロサージャリー教育  
静岡がんセンター 再建・形成外科 中川 雅裕 他
8. 下咽頭癌術後食道再建に難渋した 1 例  
愛媛県立中央病院 形成外科 尾崎 絵美 他
9. 口腔底癌切除後の欠損に対して舌骨下筋皮弁を用いて再建した 1 例  
四国がんセンター 形成外科 服部 千春 他
10. 乳児血管腫にプロプラノロールを投与した 1 例  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 三宅 啓介 他

講演 (19:10~20:00) 「Join the flow of Plastic Surgery」

講師 岡山大学病院 形成外科教授 木股 敬裕 先生

Section I (17:30~18:20)

座長：十全総合病院 形成外科

神田 郁乃 先生

1. 眼窩内異物の 1 例

松山市民病院 形成外科

○手塚 敬、松本 麻由、上村 由美子

(3 分)

12 歳男児。兄弟喧嘩で箸が眉毛の下に刺さった。3 週間程排膿する肉芽を繰り返すため皮膚科の医院から紹介された。箸は完全に抜けたとのことだったので、初診日に切開排膿を行ったが再燃した。

細菌培養で *Bacillus* が同定されたため異物の存在を疑い、CT を撮影したところ異物を認めた。

2. 獣皮様母斑の 1 例

松山赤十字病院 形成外科

○岡部 寛

(5 分)

症例は 4 歳男児。生下時より鼠径、陰茎、左臀部にかけて獣皮様母斑を認め、転居に伴い、3 歳時に当科へ紹介受診。段階的切除を行っているが、切除時に筋膜および一部陰嚢に至るまでの母斑細胞の浸潤を認めた。母斑は陰茎、亀頭、陰嚢に残存しており、機能面、悪性化の可能性を考慮し、切除範囲を検討している。若干の文献的考察を加えて症例を報告する。

3. リンパ浮腫におけるリンパ管細静脈吻合の実際

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、小林 一夫、中川 浩志、浜田 裕一、徳永 和代、尾崎 絵美  
(5分)

リンパ浮腫の治療は保存的加療とリンパ管細静脈吻合 (LVA) などの外科的治療に分けられ、両者を組み合わせることが効果的であるとされる。リンパ管の同定には ICG 蛍光観察が有用であるが、当科では 2013 年に ICG 観察装置付きの手術用顕微鏡を導入し、術中に蛍光観察を行いながら手術を進めることによって、より安全、確実に LVA を行うことが可能となった。実際の概要について発表する。

4. 頭蓋骨欠損に対して用いた人工骨の検討

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、中岡 啓喜、戸澤 麻美、三宅 啓介  
(5分)

最近 5 年間で当科および関連病院において、外傷や脳外科手術後に生じた頭蓋骨欠損に対して、再建の際に用いた人工骨について検討した。再建症例は 6 例 8 回 (男 5、女 1) で、用いた人工骨はチタン製 3 回、樹脂製 4 回、ハイドロキシアパタイト 1 回であった。各々の特徴や用途について検討を行ったので報告する



5. 皮膚悪性腫瘍と鑑別が困難であった腺様嚢胞癌の 2 例

住友別子病院 形成外科

○北口 陽平、安井 史明

(5 分)

腺様嚢胞癌(以下 ACC)は唾液腺好発の悪性腫瘍である。我々は皮膚悪性腫瘍との鑑別が困難だった ACC の 2 症例を経験した。

症例 1.59 歳男性。主訴は右上口唇腫瘍。皮膚生検で基底細胞癌と診断され切除したが、永久標本の結果は ACC であり、追加拡大切除した。

症例 2.63 歳男性。主訴は左鼻翼腫瘍。皮膚生検で ACC と診断され、切除、再建を行った。

ACC は予後不良であり、皮膚腫瘍の診療において、鑑別診断で ACC を念頭に置くことは重要である。

Section II (18:20~19:10)

座長：愛媛労災病院 形成外科

黒住 望 先生

## 6. 77 歳の唇顎口蓋裂症例

県立広島病院 形成外科<sup>1</sup>、 広島大学病院 形成外科<sup>2</sup>○永松 将吾<sup>1</sup>、望月 由<sup>1</sup>、横田 和典<sup>2</sup>

(5 分)

77 歳女性。出生時より両側唇顎口蓋裂を認め、幼少期に口唇形成術を、13 歳で口蓋形成術を受けた。また 15 歳時には象牙による隆鼻術を受けていた。2014 年 2 月に鼻尖部に難治性潰瘍を生じ当院紹介受診、CT 撮影を行った。鼻部皮下に破損した皮下異物を認め、さらに上顎骨の著明な低形成、梨状口の横径拡大、未治療の両側顎裂などを認めた。異物の摘出により鼻尖部の潰瘍は治癒した。戦前戦後の唇顎口蓋裂治療を垣間見る貴重な機会であり報告した。

## 7. 静岡がんセンターのマイクロサージャリー教育

静岡がんセンター 再建・形成外科

○中川 雅裕、井上 啓太、五来 克也、三枝 紀子、北辻 まき、丸山 陽子、  
五島 幹太、嶋本 涼、武石 明精

(5 分)

静岡がんセンターではマイクロサージャリーの教育に力を入れてきた。マイクロのトレーニング方法はローテーションによる執刀である。2002 年 9 月の開院以来、スタッフ、レジデントの 22 人がこの方法で教育を受けた。2014 年 3 月までに 818 例のマイクロ手術を行い血栓形成 18 例 (2.2%)、皮弁全壊死 9 例 (1.1%) であった。最近 6 年間の血栓形成率はスタッフ 3.0%、レジデント 1.7%であり、レジデントのほうが成績は良かった。今後は教育以外の研究・開発にも力を入れていく予定である。

8. 下咽頭癌術後食道再建に難渋した 1 例

愛媛県立中央病院 形成外科

○尾崎 絵美、小林 一夫、中川 浩志、濱田 裕一、徳永 和代、石野 憲太郎

(5 分)

65 歳男性、下咽頭癌にて咽喉頭食道摘出後遊離空腸で咽頭食道再建を行ったが、モニター腸管で鬱血を認め、翌日再度血管吻合を行い血流は改善した。しかし血圧変動が激しく出血等もあり、移植腸管は壊死に陥り、その後広背筋皮弁で食道再建を行ったが、瘻孔を形成した。左 DP 皮弁や大胸筋皮弁で瘻孔閉鎖を試みたが、瘻孔閉鎖に至らず、右 DP 皮弁にて瘻孔閉鎖に至った。食道再建について若干の考察を加え症例を報告する。

9. 口腔底癌切除後の欠損に対して舌骨下筋皮弁を用いて再建した 1 例

四国がんセンター 形成外科

○服部 千春、河村 進、時吉 貴宏

(5 分)

症例は、71 歳 男性

口腔底に 1.8×1.4 cm の扁平上皮癌を認め、安全域を確保した腫瘍切除術及び頸部リンパ節郭清 (Level I) を施行した。腫瘍切除後の欠損創に対して、頸部に 4×6 cm の皮島をデザインし、舌骨下筋皮弁を用いて再建を行った。

筋皮弁は、全生着し、食事摂取に問題なく、構音の状態も良好である。

頭頸部の小欠損に対して、再建の選択肢の一つとなる有用な皮弁であると考えられたため、文献的考察を加えて報告する。

10. 乳児血管腫にプロプラノロールを投与した1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○三宅 啓介、森 秀樹、戸澤 麻美、中岡 啓喜

(3分)

症例は2ヶ月、女児。開瞼障害を伴う乳児血管腫に対してプロプラノロール投与を行った。全身状態の評価後に入院監視下でプロプラノロールを0.5mg/kg/dayから開始し、2.0mg/kg/dayまで漸増した。明らかな副作用はなく、開瞼障害は改善したため通院とした。乳児血管腫に対する $\beta$ -blocker投与はまだ確立された治療法ではない。症例の蓄積による効果と副作用の検証のうえ、適応の標準化が求められる。

講演 (19:10~20:00)

「Join the flow of Plastic Surgery」

講師 岡山大学病院 形成外科教授 木股 敬裕 先生

御略歴：

- 1984 年 筑波大学医学部卒業
- 1988 年 東京大学医学部附属病院形成外科
- 1990 年 同愛記念病院形成外科医長
- 1993 年 竹田総合病院形成外科科長
- 1995 年 国立がんセンター東病院・中央病院 形成外科医長
- 2003 年 ハーバード大学形成外科留学
- 2004 年 岡山大学医歯薬学総合研究科 形成再建外科学教授

主な役職：

- 日本形成外科学会 評議員
- 日本頭頸部癌学会 理事
- 日本頭蓋顎顔面外科学会 代議員
- 日本リンパ学会 評議員
- 日本オンコプラスチックサージャリー学会 評議員 など

愛媛形成外科研修会 総会(20:00～)

1. 次回研修会の日程
2. その他